

アカデミック英語能力テスト (TEAP) 開発の意味

吉田研作 (上智大学)

***本稿は上記論文のドラフトである**

2009 年 3 月に上智大学と日本英語検定協会の間で、新たにアカデミック英語能力テスト (TEAP) の共同開発のための覚書が交わされた。TEAP は、2013 年度入試から上智大学の入学基準として使われるもので、4 技能 (リスニング・リーディング・ライティング・スピーキング) 全ての英語力を測定できるテストである。

本稿では、なぜこのような新たな英語能力テストを開発することになったのか、また、TEAP の特徴について述べる。

TEAP 開発の理由は色々あるが、一つは、現在の日本の大学の入試のあり方に一石を投じることである。最近のセンター試験は、従来の文法訳読中心のテストからは程遠い、よりコミュニケーション能力を測定するものになっているにも関わらず、高校現場における受験英語への対応は、いまだに文法と単語を覚えこむ、という方法がとられていると言って良いだろう。

しかし、大学入試のあり方だけが理由ではない。日本人が良く受ける英語能力テストの主なものに、英検、TOEIC、TOEFL、IELTS などがある。しかし、英検は、いわゆる「一般的英語能力」テストであり、テスト範囲が非常に広い。それに対して、TOEFL や IELTS などは、英語圏でのアカデミックな場面で英語がどれだけ使えるかを測定するという、より焦点が絞られた目的を持っている。また、TOEIC も国際的な場面でのビジネスを中心とした英語によるコミュニケーション能力を測定するという目的を持っている。他にも社会人、中高生、あるいは子どもを対象とした英語能力テストはあるが、日本の大学生に求められる英語力を測定するテストはない。

勿論、センター試験はあるが、その最も大きな目的は、学習指導要領等で高校までに育成することが求められている英語力がどこまで修得されたかを測定することであり、日本の大学生に求められる英語力を見ようとしたものではない。つまり、様々な英語能力テストが存在する中で、唯一、日本の大学生に求められる英語力を測定するテストがないのである。

ところで、大学生活に必要な英語力を見るのであれば、TOEFL や IELTS のように世界的にも認められているテストがあるので、それを使えば良いのではないかという人がいるかもしれない。しかし、日本という英語が外国語である環境で求められる英語力は必ずしも同じではない。オーラル・コミュニケーション能力と文字コミュニケーション能力の重要度の違い、英語の文法や語彙の知識の重要性、また、英語を使わなければならない状況

自体が違うのである。

そこで、TEAP の開発の前提として、まず、上智大学の各学科に対してヒアリングを行い、それぞれの学科が学生にどのような英語力を求めているのか、また、入学した学生の英語力がその期待にどこまでこたえているかについて調べた。更に、グローバル 30 等で指摘されている日本の大学に求められている英語力養成のための方策、また、新学習指導要領で求められている高校生の英語力等を勘案し、今後、グローバル化される日本の大学で求められる英語力がどのようなものかについて議論を重ねてきたのである。

その結果、TEAP は、いわゆる「大学入試」としてではなく、日本の大学生に今後求められる英語力を測定するための英語能力テストとし、英検、TOEFL, TOEIC 等同様、大学入学基準として使えるものと位置付けた。

では、いわゆる大学入学試験との違いについて少し述べよう。1) 受験機会を年に一回とせず、年に数回受験できるようにする、2) 東京のみならず、複数の受験会場で受験可能にする、3) テストの質を確保するために TOEFL、TOEIC 同様、問題を公開しない、そして、4) 受験者に対して英語力のフィードバックを与える（レベル、診断結果提示等）ことにより、高校現場にポジティブ・ウォッシュバックを与えることができるようにする。また、大学や学部学科によっては、4 技能全てを必要としない、というところがあることから、TEAP を 3 つに分け、基本テストとして、リスニング・リーディング能力を測定するもの、そして、選択として、ライティングテストとスピーキングテストの結果を求めることもできるようにする。

最後に、もう一つ TEAP 開発の大きな目的がある。それは、日本の大学における英語教育のあり方を見直し、大学でどのような英語力が育成されなければならないかを考えるためである。

以上のように、日本の英語教育は、どうしても入試に左右される。つまり、大学入学段階で英語によるコミュニケーション能力をより正確に測定できると同時に入学後の大学における英語教育のあり方を考えるきっかけになることが TEAP 開発の目的なのである。